

令和5年9月16日（土） 2時間目

5年1組 清水佳奈子

国語「大造じいさんとがん」

【本日のねらい（目標）】

作者の思いと作品を重ねて読み、やま場の場面に込められた作者の思いを考えることができる。

【読解力向上の視点】

「大造じいさんとがん」を書いた作者、椋鳩十について知ることができる補助資料を用意した。椋鳩十についての写真や年表、そのほかの作品名、作品についての解説などから、作者について知ること、作品に込められた思いを感じ取り、読みを深めていく。友達と考えを交流し合うことで、多様な読みがあることにつなげ、今後の読書活動を豊かにすることにつなげていきたい。

【読解力向上ポイント①】

「大造じいさんとがん」のやま場の場面に込められた作者の思いを考え、作者がどのようなことを読者に伝えたいのかを考える。

【読解力向上ポイント②】

自分の読みを友達と交流することを通して、互いの読みのよさを見付けたり、考えを広げたりする。

【この授業を通して子どもたちにつけていきたい力（担任からのメッセージ）】

「大造じいさんとがん」は、4年生までに扱った物語文とは異なり、実際の自然や動物の生き方、厳しさを感じることができる作品です。主人公の大造じいさんが雁（がん）の残雪の姿に心を打たれる場面には、作者椋鳩十さんが読者に感じてほしいメッセージが込められているのではないかと考えられます。友達と考えを交流し合うことで、物語の読みには正解がないことを実感し、日頃の読書にも、より親しめるようになると嬉しいです。